

地域医療連携ニュース

vol.22



院長就任挨拶

院長 吉井 勝彦



千船病院は、昭和34年1月に開院された千船診療所を前身とし、昭和41年5月に94床の病院として開院されました。以降、増床・改築等を経て昭和57年7月に現在の292床の病院となり、平成21年から社会医療法人の病院として運営されています。本



(千船診療所)



(千船病院)

病院は、開院当初から地域に根差し、地域医療に貢献することを使命の一つとし、平成8年には開放型病院、平成19年には地域周産期母子医療センター、平成22年には大阪府がん診療連携拠点病院となり、大阪市西部医療圏においてその中核としての診療機能を担っています。平成29年7月には阪神なんば線福駅前にも新築移転し、今後も292床の急性期医療を担う総合病院としての役割を果たして参りたいと考えております。



(新しい千船病院)

また、千船病院は臨床研修指定病院として、医療人を育成するとともに、最先端の医療においても臨床・研究の拠点として発展していきたいと考えております。新専門医制度における研修プログラムにおいても、基幹施設として法人内外の施設と連携し、

地域の実情に合った実践的なプログラムを組むことで、高度な技量を有し、チーム医療ができ、そして地域においても中心的に活躍できるような広い視野を持った医療人を育成していきます。

設備においては、最先端の医療機器をできる限り導入し、人員、設備を含めた医療の質の向上にも力を注いでおります。従来から評価をいただいております周産期医療については、更なる広域からの母体・新生児・小児搬送の受入や婦人科疾患に対する先進医療の充実を目指して参ります。また、平成29年7月の病院移転に合わせて行った手術部門の拡張、手術支援ロボット「da Vinci」などの最新医療機器の導入、「肥満・糖尿病内分泌センター」、「消化器内視鏡センター」、「鏡視下手術センター」、「関節センター」、「腎センター」など、診療科や部門の枠を超えてチーム医療を実践するセンター化を今後も積極的に推進して参ります。2025年を目前にし、地域における医療・介護の在り方として地域包括ケアシステムの構築が強力に進められております。西淀川区においても病病連携、病診連携の基で医療機能における役割分担が地元医師会を中心に進められております。本病院は、その枠組みの中で、今後も地域の皆様により一層満足して頂ける質の高い、安全・安心な医療が提供できるよう総合病院として地域に根差した医療を進めて参ります。

病院の基本理念として、「医療を通じての社会貢献」を挙げ、患者さま目線に立った、高度で安全な医療を提供することを重要な使命としております。この理念を達成するためには、医師、看護師を始めとした多くの職種が互いに連携し合って初めて可能になります。これからも職員一同、患者サービスの向上、医療安全体制の強化に全力で取り組んで参ります。

皆様方のご意見を頂戴しながら、職員一同、地域の期待に応えていくよう、より一層努力して参る所存です。地域に密着した千船病院として成長を続けて行けますよう、今後より一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



副院長就任挨拶

第二内科系担当副院長
消化器内視鏡センター センター長
船津 英司



このたび第二内科系副院長を拝命しました消化器内科の船津英司です。平素はたくさんの患者さまをご紹介いただくとともに、訪問診療を含めた退院後の継続加療を快くお引き受けいただき、常に感謝しております。新病院では消化器内視鏡センターを開設し、専門性の高い内視鏡検査をより良い環境で提供できるようになりました。スタッフも増員し、これまで以上に質の高い内視鏡検査を提供できるよう努力していく次第です。

2008年4月に千船病院に着任してから消化器診療を進めて参りましたが、進行癌や肝硬変などの終末期医療を必要とする患者が増え、また高齢・独居老人も多いことから在宅診療が必要となるケースは増加の一途を辿っています。昨今、診療所のかかりつけ医としての機能強化が謳われており、地域の先生やコメディカルの方々にとっては日常診療の更なる負担が懸念される



内視鏡検査室



内視鏡センター前処置リカバリー室

です。千船病院としても入院機能の充実だけでなく往診加療の一端を担うべく在宅診療にも取り組んでいくことになっており、地域の先生の負担を軽減できるようになればと思っています。福町に移転後、満床が続く時期もあり、救急診療や入院加療を

お受けできない事態も経験しました。私自身としては、満床だから受けられない、初期対応もできないというのではなく、初期診療から入院可能な病院の検索まで地域の先生のバックアップを病院全体で請け負っていけるようになればと思っています。また建物だけがグレードアップしたと言われないように、病院の規模に見合った診療ができていないか、標準的な医療が提供できているかを今一度見直しながら、更なる診療機能のレベルアップをはかっていきたいと思っています。また大学病院などの高次機能センターとの連携も強めていくことで、「紹介したら、後は全て任せられる」と言っていただけるような千船病院にしていければと思っています。今後は地域が抱える問題をともに解決していくために、地域医療を支える多職種の方々と顔を合わせ、医師だけでなく院内スタッフ全員が地域の現状を認識し地域医療に携わっていけるよう啓蒙していきたいと思っています。病院だけでなく私自身も、さらに成長するよう努力して参りますので、今後とも、地域医療に携わる全ての方からのご指導・ご鞭撻を宜しくお願ひいたします。



内視鏡センタースタッフ

INFORMATION

土曜日のオープン検査(CT・MRI単純撮影) 依頼受付中!!

- お仕事で平日の検査が難しい方
- 検査の待ち時間を少なくしたい方
- 平日の混雑を避けたい方

千船病院では、地域の先生方から検査を目的として、診療科受診を介さずに直接検査予約を受け、患者さまに検査を受けていただく「オープン検査」を積極的に実施しております。また、検査結果も迅速にお返しできるよう努めております。

土曜日は平日の混雑もなく、ゆったりと検査を受けていただけますので、ぜひお気軽にご利用・ご活用下さい。ご連絡をお待ちしております。



ご依頼は地域医療科まで ☎ 06-6473-9765 📠 06-6474-0161

窓口時間 月～金 8:30～18:30 土 8:30～17:00



副院長就任挨拶



第二外科系担当副院長
樋口 喜英

平成30年4月、千船病院外科系担当副院長を拝命いたしました泌尿器科の樋口喜英と申します。平成26年に千船病院に赴任し、現在泌尿器科主任部長を務めさせていただいております。

私は平成14年8月から2年半、千船病院泌尿器科の診療に携わっておりました。その当時から比べますと、病院内の医療スタッフ数は増加し診療領域の多様化もみられます。当然のことながら地域において千船病院に求められる医療や存在意義にも変化があるように感じています。

外科系の診療においては、より質の高い治療を、より低侵襲な治療をとる傾向があり、現在千船病院では医学的に適応のある症例については積極的に腹腔鏡手術をおこなっております。福駅への病院移転後からは泌尿器科および婦人科においてロボット

支援手術が始まっています。今後は、外科領域の適応疾患もひろがる医療環境にあり、高度な技術が要求される治療を安全におこなうことが大切になります。

また、術前だけでなく術後の診療やリハビリテーション、そして在宅診療や終末期医療など、様々な時期において地域の医療施設と連携させていただくことが必要になってきます。千船病院が、地域の皆様や医療関連施設の皆様にとって身近であり信頼される病院であるべく、スタッフが連携して努力していく所存であります。多くのご意見やご要望を頂くことで常により良い方向に変化していきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



看護部長就任挨拶

「医療は生活の一部」をモットーに地域の方との密接な連携



看護部長 平井 智美

この度千船病院の看護部長に着任しました平井智美（ひらい さとみ）と申します。

私自身、愛仁会発祥の地であるこの千船病院に入職し35年目を迎えます。多くの学びをいただき育てて頂いたこの場所で、看護部長として新たに出発できることを大変うれしく思っております。そして、私自身も西淀川区の地で生活している一人です。

医療は生活の一部です。必要な医療を最善の形で提供し、日常の場に戻って頂くことが大切であると感じます。そのためには、地域の患者さんと一対一の関わりをするその瞬間の看護職の意思決定と行動が、納得感、満足感、安心感を持ってもらえることができる看護を職員と共に提供して参ります。

少子高齢社会のなか、あらゆる領域や世代の患者さんを地域の中で受け入れている急性期病院としての役割を担う当院において、地域の皆さまとの連携は欠くことができません。病院内での連携はもちろんのこと、限られた入院期間の中で最善の医療・看

護が提供できるためには、入院前・入院中・入院後においての地域の皆さまとの顔の見える関係を作り、地域の人を医療・看護・介護で守り支えることができる仕組みを共に創造したいと思います。

当院には特定・認定看護師9領域9名の看護師、助産師と特定看護師4名がいます。専門知識を持った看護職が地域社会の中で活動することで、生活している一人ひとりの健康につながると思います。今年度、西淀川区の訪問看護ステーションの看護師の方が愛仁会特定行為研修を受講されると伺っております。ますます、地域での看護職の役割拡大は広がっていきます。大きな財産であるこのリソースナーズの活用も推進していきたいと思っております。

私たち地域の医療者間の連携と交流の深まりが、地域の方々の安心と笑顔を支えます。どうぞ気軽にお声かけ頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。



第1回

逆流性食道炎・ピロリ Up-To-Date ご報告

外科（消化器外科／減量・糖尿病外科） 医長 北浜 誠一



当院では高度肥満症に対する外科治療を開始し早2年弱となりますが、今月初めに50症例目を行いました。また、2017年の1年間で27件の減量手術件数は関西トップでしたが、順調に紹介症例数が増加しており2018年に入ってから昨年度の約3倍のペースで手術を行っております。幸い大きな合併症もなく、術後の体重減少も良好で平均して1年で約8割の余分な体重を減少出来ています。3月には国際学会での口演も当院から3演題行いました。

減量・糖尿病手術は患者さんのQOLを高めることが多くの研究で証明されていますが、同じくQOLを改善するための腹腔鏡下消化管手術として、逆流性食道炎（GERD）に対する外科治療があります。古くから行われており保険適用のある腹腔鏡下噴門形成術（Nissen手術 図1）ですが、正確な診断には手間がかかるため、これに対応している医療



図1 腹腔鏡下噴門形成術

施設は日本では多くありません。最近になりPPI抵抗性もしくはPPI依存性のGERDに悩んでおられる患者さんからの相談が増えてきたこと

もあり、このような会を企画させて頂きました。外科はそれぞれ米国、日本でのGERD外科治療の第一人者である北方先生、関先生をお招きして、内科はピロリ菌の最新の話もふまえてGERDの内科治療について青山先生から解説して頂きました。

会場は満員御礼で、まず炎症性腸疾患・ピロリ菌治療でご高名な青山内科クリニック 青山伸郎先生からは、ピロリ菌治療についての最新のガイドラインについての解説がありました。18歳、50歳を区切りとして年齢別の対策が示されており、18歳以下では早期発見を目的に中高生を対象に診断治療を行っている自治体があること、50歳未満では次の世

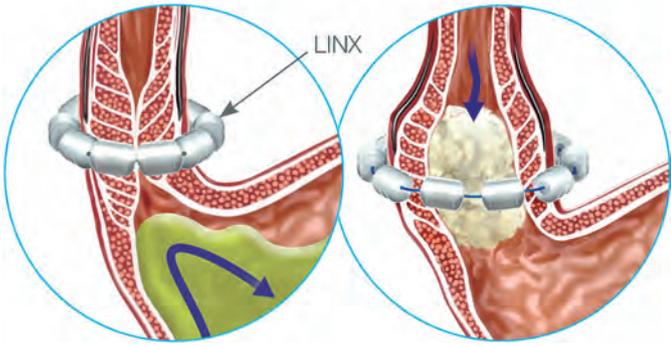
代への伝播を阻止することが大切で70歳以降でも除菌は意味があることなど、教えていただきました。ピロリ現感染、未感染、既感染の内視鏡所見の違い、また、GERDに対するPPI長期連用のリスクとその使い分けについても詳しく教えていただきました。

次に日本でGERD外科治療を最多数経験されている四谷メディカルキューブの関洋介先生から日本の外科治療の現状についてご講演頂きました。具体的な症例を示して頂いた後、内視鏡所見と腹腔鏡所見では多くの場合に乖離があるため、内視鏡で一見軽度のヘルニアに見える症例でも腹腔鏡で観察すると大きなヘルニアが存在することも多く、訴える症状が手術適応の鍵になること、典型的な胸焼けなどの食道症状でなく、食道外症状である慢性咳嗽や喘息などの呼吸器症状を主訴とする咽喉頭逆流症の治療に対して外科治療が大変高い奏効率を示していることなど、新たな知見、日本でのエビデンスについてご紹介頂きました。

最後に愛仁会高槻病院レジデント出身で現在は米国で食道外科医としてご活躍の北方敏孝先生より、お忙しい一時帰国の中ご講演頂きました。

多施設共同研究のfirst authorとして咽喉頭逆流（LPRD）の診断基準の作成、LPRD診断のための新しい検査機器の開発、また、磁石を用いたGERD外科治療の最新のデバイスであるLINXについて、最後に腹腔鏡下Nissen手術における実際の手術手





(左から) 船津副院長、関洋介先生 (四谷メディカルキューブ)、青山伸郎先生 (青山内科クリニック)、北方敏孝先生 (Allegheny Health Network, USA)、筆者

技について解説を頂きました。

懇親会の席では早速数人の先生方から PPI 抵抗性があり困っている症例についてご相談頂きました。大変盛会でしたので第2回を9月頃を目処に予定させて頂く予定としております。

—— 新任医師のご紹介 ——

平成30年4月より下記の医師が着任いたしました。
よろしくお願いたします。

 総合内科 部長 藤田 芳正先生 (ふじた よしまさ)	 消化器内科 医長 那賀川 峻先生 (なかがわ たかし)	 腎臓内科 医長 服部 英明先生 (はっとり ひであき)	 脳神経外科 医長 立林 洸太郎先生 (たてばやし こうたろう)	 救急診療部 医長 山下 公子先生 (やました きみこ)
消化器内科 羽鳥 広隆先生 (はとり ひろたか)	糖尿病内分泌内科 松山 温子先生 (まつやま あつこ)	糖尿病内分泌内科 平賀 千尋先生 (ひらが ちひろ)	腎臓内科 石井 圭先生 (いしい けい)	外科 桃野 鉄平先生 (ももの てっぺい)
産婦人科 小川 紋奈先生 (おがわ あやな)	産婦人科 北口 智美先生 (きたぐち ともみ)	産婦人科 嶋村 卓人先生 (しまむら たくと)	産婦人科 田中 美喜歩先生 (たなか みきほ)	小児科 東口 素子先生 (ひがしぐち もとこ)
小児科 角谷 哲基先生 (かくたに てつり)	小児科 河野 一誠先生 (こうの いっせい)	小児科 佐浦 龍太郎先生 (さうら りゅうたろう)	麻酔科 岡田 健志先生 (おかだ けんじ)	病理診断科 横川 暢先生 (よこかわ とおる)



新年度を迎えて



地域医療担当副院長
第一内科系担当副院長
尾崎 正憲

H29年7月に阪神なんば線福町駅前に病院移転し、もうすぐ1年になろうとしています。病院移転の際には患者様および医療・介護関係の方々にご迷惑をおかけしましたことを深謝いたします。ようやく以前のような通常業務をこなせるようになり、西淀川区の急性期病院としての責務をひしひしと感じながら日々業務に携わっております。さて、新病院移転時にダ・ヴィンチを新規に導入し、泌尿器科領域での手術を中心に稼動して参りました。この春からロボット支援手術が泌尿器科領域のみでなく、婦人科疾患や外科疾患まで拡大されるようになり、当院産婦人科も昨年より安心・安全な手術が行えるように準備を進めてきました。今年度中に既に1例手術を行い、今後症例を増やしていく予定にしております。また昨年度に肥満・糖尿病内分泌センターを立ち上げ、減量・糖尿病外科医や糖尿病・内分泌内科専門医、精神科医、麻酔科医、糖尿病認定看護師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、ソーシャルワーカーなどの多職種で協力して診療にあたっており、最近では

携パスの導入も検討しています。2025年問題を直前にして、急性期医療を中心とした医療システムでは地域医療が成り立たないのは周知のことと思います。地域包括ケアシステムの一つとして在宅医療が推進されていますが、当院では今年度より千船腎臓・透析クリニックを千船クリニックと改称し、在宅診療部門を設立します。これまで地域の先生方に多大なご負担をおかけしておりましたが、少しでも西淀川区の地域医療に貢献できれば幸いです。

千船病院は大阪府西部医療圏での中核的な急性期病院ですが、次年度には地域医療支援病院の認定を受けることができるよう準備を進めております。地域の先生方から常に信頼される病院となるべく、引き続き病診・病病連携を進めていきたいと考えております。また、これまでも地域住民の健康増進のため、健康教室や市民公開講座を開催してきましたが、今後はさらに地域医療の向上に関する研修会や講演会などを開催していく予定です。

医療機器も新しく購入し、これまで以上に精度の高い検査結果が得られるようになりました。移転後に遠方となって通院に困難な方が多数見受けられることには、大変申し訳なく思っておりますが、今年度からはJR尼崎や阪急十三駅に紹介患者さま専用の送迎車を出す予定です。開放型病院である当院の検査機器を有効に活用していただくため、少しでも地域住民の皆様に貢献できればと考えております。本年度も微力ながら地域医療の発展に努力して参りますので、皆様方のご指導・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



遠方からの紹介患者も増え、減量・糖尿病手術件数も着々と伸びてきており、今年度は日本肥満症治療学会

の肥満外科手術認定施設を取得できるように体制を整えていっております。地域周産期医療のさらなる充実化に加えて、大阪府がん診療拠点病院としての責務を果たすべく、今後は癌疾患の地域連

社会医療法人愛仁会 千船病院

大阪市西淀川区福町三丁目2番39号
TEL 06-6471-9541(代表)
06-6473-9765(地域医療科直通)
FAX 06-6474-0161(地域医療科直通)
<http://chibune.aijinkai.or.jp>



理念

千船病院（千船腎臓・透析クリニック）は医療を通じて社会に貢献します

基本方針

- ・患者さまに質の良い医療を提供します
- ・患者さまに安心と満足の頂ける公正な医療を提供します
- ・患者さまのプライバシーと権利を守ります
- ・開放型病院としての役割を自覚し効率の良い地域医療を提供します